

岡田宮

宝永4年(1707) 貝原益軒書

第72号

令和3年11月吉日
発行 岡田宮社務所
郵便番号 806-0063
北九州市八幡西区岡田町1番1号
電話 (093) 621-1898
FAX (093) 621-5330
ホームページ <http://www.okadagu.jp/>
Eメール okada_guu@yahoo.co.jp

年末年始の行事案内

●大祓

大祓とは、半年間の罪穢を祓い、清々しい心となって各自の勤めに励み一家の幸福を増進せんとする意義深い行事です。

十二月三十一日

●開運福引き

一枚五百円でハズレなし。一等は羽根ぶとんなどが当ります。新年の運だめしにどうぞ。

一月一日〜三日

●どんど焼祭

古くなったノ縄、門松等を焼納する神事。地元の有志による餅まき、神酒接待、せんごい等の諸行事は中止します。

一月十六日(日)

●恵方祭

十二月三十一日 二十三時半
子宝恵方犬の向きを南南東から北北西に変えます。

●歳旦祭

新しい年をお祝いし、今年も良い年であるようにと願う神事。恒例の「福餅」五百個は今年は中止します。

一月一日



令和4年算賀の年祝

(年齢は数え年)

還暦	六十一才	昭和三十七年生
古稀	七十才	昭和二十八年生
喜寿	七十七才	昭和二十一年生
傘寿	八十才	昭和十八年生
米寿	八十八才	昭和十年生
卒寿	九十才	昭和八年生
白寿	九十九才	大正十三年生

令和4年の八方除

五黄土星の方

生年	年齢(数え年)
昭和七年	九十一歳
昭和十六年	八十二歳
昭和二十五年	七十三歳
昭和三十四年	六十四歳
昭和四十三年	五十五歳
昭和五十二年	四十六歳
昭和六十一年	三十七歳
平成七年	二十八歳
平成十六年	十九歳
平成二十五年	十歳

令和4年の厄年

(年齢は数え年)

厄年(男)	年齢
二十四才	前厄 平成十一年生
二十五才	大厄 十年生
二十六才	後厄 九年生
四十一才	前厄 昭和五十七年生
四十二才	大厄 五十六年生
四十三才	後厄 五十五年生
六十才	前厄 三十八年生
六十一才	大厄 三十七年生
六十二才	後厄 三十六年生

厄年(女)

十八才	前厄 平成十七年生
十九才	大厄 十六年生
二十才	後厄 十五年生
三十二才	前厄 三年生
三十三才	大厄 二年生
三十四才	後厄 昭和六十四年・平成元年生
三十六才	前厄 六十二年生
三十七才	大厄 六十一年生
三十八才	後厄 六十年生
六十才	前厄 三十八年生
六十一才	大厄 三十七年生
六十二才	後厄 三十六年生

◆厄年大祭

二月節分日

今こそ
祈ろう
こころを
ひとつに



ご家庭でお神札をおまつりしましょう

神さまに対するおまつりは、家庭の中でも行うことができます。ご家庭の中心に神棚を置いて、お伊勢さまと氏神さま、崇敬する神社のお神札をおまつりし、日々の暮らしの中での感謝と祈りをささげるとともに、お子さまの誕生や結婚など、ご家庭で大きな出来事があった際には、氏神さまに報告し、新たに迎える生活の平穏を祈りましょう。

お伊勢さまは
日本を
お守りくださる
尊い神さま

伊勢の神宮は全国に数ある神社の中でも、特別な存在のお宮で、皇室の御祖神である天照大神をおまつりしています。天照大神は、太陽のようにながらみを見守り、育んでくださる神さまです。伊勢の神宮のお神札を、神宮大麻といひ、全国の神社でお願ちしています。

氏神さまは
私たちを
お守りくださる
身近な神さま

日本では代々、祖先に神の深い神さまや、地域をお守りくださる土地神さまを氏神さまとしておまつりしてきました。おまつりされている神さまは神社によって様々ですが、氏神さまは地域に住む人々の日々の生活を護守ってくださっています。

目次

- 今こそ祈ろうこころをひとつに……………1
- 岡県紀行12……………2
- 神社なぜなぜ問答72……………2
- 第二十七回 岡田神社書道展……………3
- 年末年始の行事案内……………4
- 令和4年の厄年……………4

第二十七回 岡田神社書道展

◆会 期 令和3年7月17日(土)～29日(木) ◆総出品点数 628点

岡田宮賞									
小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3	特選
白桐 依重	下川 隼梧	西野 俊歩	河野 里歩	山口 実紀	岩熊 里歩	高野 沙莉	吉良 夏希	古賀 琴	穴井 寧々
小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3	特選
高野 琴	吉良 夏希	古賀 琴	高野 琴	吉良 夏希	古賀 琴	高野 琴	吉良 夏希	古賀 琴	高野 琴
小4	小5	小6	中1	中2	中3	特選	小1	小2	小3
豊島 早希	押方 咲空	山岸 優子	友添 ゆず	吉良 和紗	上田 紗菜	植本 慧	山口 恵人	塚本 椋大	坂本 望未
小4	小5	小6	中1	中2	中3	特選	小1	小2	小3
石打 和奏	江口 桃太	金子 智太	渡邊 智衣	早川 結衣	村上 心春	宮崎 由佳	谷口 明奈	番庄 稀里子	園田 莉央
小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3	特選
石打 和奏	江口 桃太	金子 智太	渡邊 智衣	早川 結衣	村上 心春	宮崎 由佳	谷口 明奈	番庄 稀里子	園田 莉央



有川写真館
岡田神社 STUDIO

撮影衣装・着付・ヘアメイク無料

¥27,500~

(四切1枚・台紙付)

七五三お出かけレンタル衣装

¥0~

(お一人様)

新作ブランド衣装など多数取り揃えております

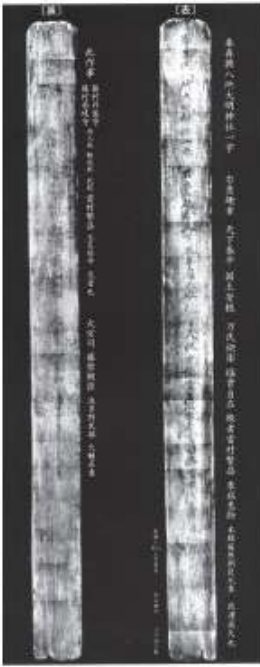
北九州市八幡西区岡田町1-46
TEL 093-621-2080

■営業時間 10:00~17:00
■定休日 水曜日

岡山紀行 12

八所大明神社再興の棟札

八所大明神社とは、岡田宮の前身の一社である。戦国時代の永禄八年(一五六五)三月、波多野直重(民部大輔)が大宮司であった時の棟札が岡田宮に現存する(「岡田神社誌」)。文政五年(一八二二)三月二十日、福岡藩士青柳種信らは黒崎宿熊手の史料調査を行い、岡田宮では永禄八年の棟札を発見し、文言を書き写している。



さて、永禄八年当時、熊手村の枝村(枝郷)である山寺(現山寺町)に八所大明神社を再興した麻生元重は、山鹿麻生氏の当主隆実の一族で、隆実と行動を共にしていた。のちに元重は民部少輔を名乗り、隆実の孫である武鶴丸の後見人を務めたようである。同年、中国地方の毛利氏方として隆実は花尾城に入っていたが、毛利氏と豊後の大友氏が和睦したため、花尾城を明け渡し、山鹿城に移ったようである。同年三月は元重も花尾城に在城していたと推測される時期で、棟札の文言によると「武運長久」を祈願して八所大明神社を再興した。実際の「作事」(建築工事)を取り仕切ったのは麻生氏家臣の藤村丹後守・藤村宅岐守である。

永禄八年の再興より前、大友宗麟(義鎮)が遠賀郡(御牧郡)の神社を焼き討ちした際、同社も焼亡したという。ただ文禄二年(一五九三)、大名としての大友氏は豊臣秀吉によって改易された。そのため、江戸時代に編纂された史料などで、遠賀郡や豊前国規矩(金敷)郡などの神社焼き討ちは、

神社のなせ問答

「みこと」
「みこと」という呼称は、一般的に神様や身分の高い人、目上の人などに對する敬称として用い、固有名詞の後に「を」を添えて、「……の(みこと)」という使い方をします。その語源は「み」を接頭語として

大友氏が実行者に仕立て上げられている可能性があるのに注意する必要があります。

ところで、棟札には「天下泰平・国家安穩・万民快樂・福貴自在」、「当村繁昌・衆病悉除」が再興の趣意とある。元重自身の武運に加え、熊手村の繁栄やあらゆる病の退散とあるのは、昔も今も人々の願うことはあまり変わらなうと感じさせる。

岡田宮は神武天皇東征ゆかりの神社として知られるが、一次史料(同時代史料)の棟札でも永禄八年までさかのぼることができる歴史のある神社である。

(北九州市立自然史・歴史博物館 学芸員 守友 隆)

「御事」であるとする説、また「御言」や「御子」であるなどさまざま説がありますが、「御言」は神様や天皇の御せになるお言葉、「御子」はそのお子様を示すように高貴な方を敬って使われる語であることには相違ありません。

この中でも、特に神様に用いられる場合に、「命」と「尊」という文字を使い分ける場合があります。

このことは「日本書紀」神代巻の冒頭に「至りて尊きを尊と命(み)を、自余(そのほか)を命と命(み)を、並(み)を、美等(みこと)と訓(よむ)とあり、日本書紀」では、天地開闢(てんちのかいびやく)に際して現れた国常立尊(くにのとこたちのみこと)や伊弉諾尊(いざなぎのみこと)、伊弉冉尊(いざなみのみこと)、天照大御神と共に伊弉諾尊より生じた月読尊(つきよみのみこと)、素戔鳴尊(すさのおのみこと)、また天津神(あまつかみ)の命を受けて葦原中国(あしはらのなかつくに・日本)に天降った瓊瓊杵尊(にぎのみこと)など、神々の中でも特に至貴な神様には「尊」が、それ以外の神様には「命」が用いられています。

しかし「古事記」には、このような文字の使い分けがなく、すべてにこの使い分けがなされているわけでもありません。